

【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

部局名 空間システム専攻（修士）

1. 新ディプロマ・ポリシー

教育の目的	<p>空間システム専攻（修士プログラム）では、建築単体から都市に至るまで、快適で、美しく、丈夫で、使いやすい建築空間を構想し、実際に造り、そして使い続けるための理論や技術を習得させ、共生・持続・循環型社会の構築に広く貢献できる研究者や高度専門職業人を養成するための教育と研究指導を行う。本専攻には、各自の専門性に応じた多様な研究を行う機会を提供するために、3つのコース（建築計画学、建築環境学、建築構造学）を設ける。</p> <p>本プログラムを修了した学生は、以下のことが期待される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高い教養と見識に加えて、建築・都市の幅広い知識・技術と専門性を身に付けている。 ・ 建築・都市にかかわる課題を自ら発見し、客観的な分析と独自の構想を通して、その解決を提案し、実現に向けてリーダーシップを発揮できる。 ・ 地域社会、国際社会が要請する新たな建築・都市を自ら構想し、創造できる。 <p>上記の目的を達成し、本プログラムの所定の修了要件を満たした者に対して、履修した科目および研究テーマに応じて、修士（工学）または修士（人間環境学）の学位を授与する。</p>
参照基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般社団法人 日本技術者教育認定機構「日本技術者教育認定基準 個別基準（2019年度～）」、「認定基準」の解説（建築系学士修士課程 2019年度～）」 ・ （参考）日本学術会議「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 土木工学・建築学分野」（2014年3月19日）
学修目標	<p>A.（主体的な学び・協働）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建築・都市に関する専門知識にとどまらず、工学、歴史、芸術など自然科学や人文社会科学の知識を包括的に把握する意欲を持つ。 ・ 建築・都市・社会システムを俯瞰的に捉え、構成要素間の相互作用を考慮しながら課題を解決するバランス感覚を持つ。 ・ 表現能力とコミュニケーション能力を鍛え、広く世界と交流し、価値観の異なる多様な人々と協働して課題解決にあたる視点を持つ。 <p>B.（知識・理解）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建築・都市の多様な空間について、計画・設計・施工・維持

【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

管理するための専門知識全般を習得し、その理論と方法の概要を説明できる。

- ・ 使いやすく魅力的で長く人々に愛される多様な空間を計画・設計するための理論・方法について深く理解し、論理的に説明できる（建築計画学コース）。
- ・ 快適・安全かつ健康で省エネルギーな建築・都市を設計・運用するための理論・方法について深く理解し、論理的に説明できる（建築環境学コース）。
- ・ 災害に対して安全かつ力学的合理性を有する建築の設計理論・方法、あるいは目的に応じた適切な材料選定と建築施工に関する理論・方法について深く理解し、論理的に説明できる（建築構造学コース）。

C. (能力)

C-1. (適用・分析)

- ・ 「B. (知識・理解)」を実践・活用することにより、建築・都市にかかわる計画・設計・施工・維持管理・調査・実験・分析などを実行し、問題を論理的・技術的に解決できる。

C-2. (評価・創造)

- ・ 「B. (知識・理解)」を実践・活用することにより、建築・都市の現状を評価し、自ら課題発見するとともに、その問題点を明確にし整理できる。
- ・ 「B. (知識・理解)」に加えて個々の知識を応用・総合し、かつ自身の有する創造性を発揮して、将来あるべき建築・都市を構想できる。
- ・ 自身の考えについて、文書・模型・図面等を用いて具現化するとともに、論理的かつ明快に提案できる。

D. (実践)

- ・ 高い学習意欲を維持するとともに、専門家としての社会との関わりを自覚し、高度な倫理感を持つ。
- ・ 課題解決に対して自ら構想した方策を他者へ提案し、その実現に向けてリーダーシップを発揮できる。
- ・ 関連する産業、予算、法的制約のなかで、多様な空間について、分析・企画・計画・設計・施工を経て、その後の持続的な運用・保全・管理・修復までのプロセスにおいて求められる各種専門的スキルを習得した技術者として社会に貢献できる。

【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

2. 新カリキュラム・ポリシー

建築単体から都市に至る様々な課題を自ら発見し、客観的な分析や独自の構想を通して、その解決策を提案できる人材の育成を目指す空間システム専攻（修士プログラム）では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、別表（カリキュラム・マップ）の通り、教育プログラムを編成する。

【コースワーク】

空間システム専攻（修士プログラム）では、①建築・都市についての幅広い知識・技術と専門性の獲得、②建築・都市に関する課題を自ら発見する能力、③客観的な分析と独自の構想を通じた課題解決策の提案力、④提案の実現に向けたリーダーシップ、⑤建築計画学・建築環境学・建築構造学など各自の持つ専門的観点から新たな建築・都市を自ら構想し、創造する能力を養成する。そのために本専攻では、建築・都市に関する各専門分野を理論から応用まで幅広くかつ深く総合的に学ぶことができるように、多様な授業科目によって教育課程を構成している。その教育課程は、特別研究、専攻独自の特論・演習・ゼミナール・スタジオ科目、専門別に共通で実施する特別講義、および各種共通科目からなる。上記の①～⑤を実現する教育の中心は、必修科目である「特別研究」であり、研究を通して課題発見から解決策の提案までを実践する。また、個別の専門性の向上を目指した特論科目では、上記の①と②、およびその特論科目で得た知識や技能を具体的な課題に対して適用する力、実践的な課題解決を行う演習・ゼミナール・スタジオ科目では②と③の養成を行う。さらに学府共通科目である「人間環境学」等、都市共生デザイン専攻との共通授業である「都市建築コロキウム」において、多分野の学生と協働して課題解決に取り組むことで②～⑤を総合的に養成する。また、「特別講義」では、環境分野や構造分野の外部講師による先端的な講義等を通して主に①の養成を行う。加えて、「建築インターンシップ」では、実務における実践的な課題解決に取り組むことで、①～⑤を包括する実践力の育成を図る。

本プログラムの修了要件では、「特別研究」のみを必修として位置づけ、その他の授業科目については他専攻科目も含めて全て選択とし、学生各自の目標に応じて多分野の科目を幅広く総合的に学ぶ履修計画から、自身の専門性を重視して特定分野を深く学ぶ履修計画まで、多岐にわたって自由に選択できるようにしている。

さらに、もう一つの教育プログラムである持続都市建築システムプログラムが整備されており、建築・都市の持続化に関わる課題を扱うより幅広い授業科目の履修も可能である。また、2017年より開始した「大学の世界展開力強化事業（キャンパス・アジア）」において、本学と同済大学（中国）、釜山大学（韓国）の3大学がコンソーシアムを形成しダブルディグリープログラムを構築している。

【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

【研究指導体制】

複数指導教員体制をとり、学生へのきめこまやかな指導を行っている。修士課程の学生については1名の主指導教員と1名の副指導教員で研究指導に当たる。この他、入学当初にはオリエンテーションを行い、コースワークや教員陣容について解説することで、学生の興味関心に応え得る研究・教育体制であることを示し、学生が自身の研究の推進において必要な情報にアクセスしやすい環境を整えている。

【学位論文審査体制】

学位論文の審査では、主指導教員・副指導教員を含む複数の教員によって、修士論文を審査し、修士論文発表会において公開質疑を行った上で可否を判定する。

【継続的なカリキュラム見直しの仕組み（内部質保証）】

ディプロマ・ポリシーに掲げた学修目標の達成度は、以下の方針（アセスメント・プラン）に基づいて評価し、その評価結果に基づいて、比較的専門に近い教員によって構成される構造系教育会議等のコース毎の検討会議等において、授業科目内の教授方法や授業科目の配置等の改善の必要性を検討することで、教学マネジメントを推進する。

《アセスメント・プラン》

修士論文の内容、各授業の成績評価、および各授業の最後に行われる受講生へのアンケート調査に基づいて、学修目標の達成度を総合的に評価する。

3. 新アドミッション・ポリシー

求める学生像	<p>（全学共通）国立大学法人九州大学では、本学教育憲章の理念と目的を達成するために、高等学校等における基礎的教科・科目の普遍的履修を基盤とし、大学における総合的な教養教育や専門基礎教育を受け、自ら学ぶ姿勢を身に付け、さらに進んで自ら問いを立て、創造的・批判的に吟味・検討し、他者と協働し、多様で幅広い視野で問題解決にあたる力を持つアクティブ・ラーナーへと成長する学生を求めている。</p> <p>（部局固有）空間システム専攻（修士プログラム）では、学士課程で培った以下のような資質を備えた学生を求めている。ただし、全ての資質をバランス良く備えていることだけでなく、突出した資質や能力を評価することも重要だと考えている。</p> <p>① ハードな工学技術からソフトな社会、文化、芸術に至る幅広い分野への関心と自らの専門分野に関わる基礎的な専門知識や技能</p>
--------	---

【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

	<ul style="list-style-type: none"> ② 自ら課題を発見しようとする探究心とその課題の背景を深く洞察する姿勢 ③ 得られた知識を活かし、他者と協働して新しい提案を生み出そうとする意欲 ④ 自らの考えを分かりやすく伝え、他者の理解を得るための表現力と語学力 ⑤ 専門家を目指して常に努力する前向きな姿勢とそれを継続する意欲
<p>入学者選抜方法との関係</p>	<p>夏季に行われる一般選抜および社会人特別選抜では、個別学力試験（外国語試験を含む）によって「求める学生像」の①に掲げられた基礎的な専門知識や技能，ならびに②～④の資質，さらに口述試験によって①にある幅広い分野への関心，ならびに②～⑤の資質について総合的に評価する。</p> <p>冬季に行われる一般選抜および社会人特別選抜では、個別学力試験（外国語試験のみ）によって④の語学力，卒業論文またはその梗概によって①に掲げられた基礎的な専門知識や技能，ならびに②～④の資質を評価する。さらに口述試験におけるこれまでの研究および今後の研究計画に関する発表・質疑応答によって①にある幅広い分野の関心，ならびに②～⑤の資質について評価する。ただし，冬季に行われる一般選抜および社会人特別選抜では，①～⑤の全ての資質をバランス良く備えていることよりも，突出した資質や能力を評価することに力点を置いている。</p> <p>冬季に行われる外国人留学生特別選抜では，個別学力試験（外国語・日本語試験を含む）によって①に掲げられた基礎的な専門知識や技能，ならびに②～④の資質，さらに口述試験によって①にある幅広い分野への関心，ならびに②～⑤の資質について総合的に評価する。</p>

【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

部局名 空間システム専攻（博士）

1. 新ディプロマ・ポリシー

教育の目的	<p>空間システム専攻（博士プログラム）では、建築単体から都市に至るまで、快適で、美しく、丈夫で、使いやすい建築空間を構想し、実際に造り、そして使い続けるための理論や技術を習得させ、共生・持続・循環型社会の構築に広く貢献できる研究者や高度専門職業人を養成するための教育と研究指導を行う。</p> <p>本プログラムを修了した学生は、以下のことが期待される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高い教養と見識に加えて、建築・都市の幅広い知識・技術と卓越した専門性を身に付けている。 ・ 建築・都市にかかわる課題を自ら発見し、客観的な分析と独自の構想を通して、その解決を提案し、実現に向けてリーダーシップを発揮できる。 ・ 地域社会、国際社会が要請する新たな建築・都市を自ら構想し、創造する。 ・ 自立した研究者として、国際的にも活躍し、専門分野の発展に貢献する。 <p>上記の目的を達成し、本プログラムの所定の修了要件を満たした者に対して、履修した科目および研究テーマに応じて、博士（工学）または博士（人間環境学）の学位を授与する。</p>
参照基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般社団法人 日本技術者教育認定機構「日本技術者教育認定基準 個別基準（2019年度～）」、「認定基準」の解説（建築系学士修士課程 2019年度～）」 ・ （参考）日本学術会議「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 土木工学・建築学分野」（2014年3月19日）
学修目標	<p>A. （主体的な学び・協働）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建築・都市に関する専門知識にとどまらず、工学、歴史、芸術など自然科学や人文社会科学の知識を包括的に把握する意欲を持つだけでなく、他分野と自身の研究分野との関わりについても積極的に考える意欲を持つ。 ・ 建築・都市・社会システムを俯瞰的に捉え、構成要素間の相互作用を考慮しながら課題を解決するバランス感覚、ならびに課題を創造的・批判的に吟味・検討する視点を持つ。 ・ 豊かな表現能力とコミュニケーション能力を駆使して、広く世界と交流し、価値観の異なる多様な人々と協働して課題解決や新たな

【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

な構想の実現にあたる視点を持つ。

B. (知識・理解)

- ・ 建築・都市の多様な空間について、計画・設計・施工・維持管理するための専門知識全般を習得し、その理論と方法の概要を論理的かつ総合的に説明できる。
- ・ 使いやすく魅力的で長く人々に愛される多様な空間を計画・設計するための理論・方法について深く理解し、自身の研究分野と関連させて論理的に説明できる（建築計画分野）。
- ・ 快適・安全かつ健康で省エネルギーな建築・都市を設計・運用するための理論・方法について深く理解し、自身の研究分野と関連させて論理的に説明できる（建築環境分野）。
- ・ 災害に対して安全かつ力学的合理性を有する建築の設計理論・方法、あるいは目的に応じた適切な材料選定と建築施工に関する理論・方法について深く理解し、自身の研究分野と関連させて論理的に説明できる（建築構造分野）。
- ・ 自らが専攻し研究を行っていく上で必要となる高度な専門知識・理論・技術を習得し、それらを用いて自身の研究について詳しく解説できる。

C. (能力)

C-1. (適用・分析)

- ・ 「B. (知識・理解)」を実践・活用することにより、建築・都市にかかわる計画・設計・施工・維持管理・調査・実験・分析などを実行し、問題を論理的・技術的に解決するとともに、それによって新たな知見を導くことができる。

C-2. (評価・創造)

- ・ 「B. (知識・理解)」を実践・活用することにより、建築・都市が抱える課題を自ら発見し、客観的分析と論理的思考を通じてその問題点を明確にし、自身が身に付けた高度な専門的能力に基づいて解決に向けた研究を立案できる。
- ・ 「B. (知識・理解)」に加えて個々の知識を応用・総合し、かつ自身の有する高度な専門性と創造性を発揮して、将来あるべき建築・都市を構想できる。
- ・ 自身の考えについて、文書・模型・図面等を用いて具現化するとともに、論理的かつ明快に提案できることに加えて、他者とその考えについてさらに深く掘り下げた議論ができる。

D. (実践)

【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

- ・ 高い学習意欲を維持するとともに、専門家としての社会との関わりを自覚し、高度な倫理感を持つ。
- ・ 課題解決に対して自ら構想した方策を他者へ提案し、その実現に向けてリーダーシップを発揮できることに加えて、指導的立場からの実行能力、チームの運営管理能力、後進を育成する能力を持つ。
- ・ 身につけた建築学に関する高度な専門的能力を自身の研究に応用・展開し、自立した研究者として国内外における専門分野の発展に貢献できる。

2. 新カリキュラム・ポリシー

建築単体から都市に至る様々な課題を自ら発見し、客観的な分析や独自の構想を通して、その解決策を提案できるとともに、自立した研究者として国際的にも活躍し、専門分野の発展に貢献できる人材の育成を目指す空間システム専攻（博士プログラム）では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、別表（カリキュラム・マップ）の通り、教育プログラムを編成する。

【コースワーク】

空間システム専攻（博士プログラム）では、①建築・都市についての幅広い知識・技術と専門性の獲得、②建築・都市に関する課題を自ら発見する能力、③客観的な分析と独自の構想を通じた課題解決策の提案力、④提案の実現に向けたリーダーシップ、⑤建築計画学・建築環境学・建築構造学など各自の持つ専門的観点から新たな建築・都市を自ら構想し、創造する能力を養成する。本専攻における教育課程は、博士論文指導演習、専攻独自の講究科目および学府共通科目からなる。上記の①～⑤を実現する教育は、必修科目である「博士論文指導演習」とそれぞれの講究科目において、研究活動を通して課題発見から解決策の提案までを総合的に実践する。また、学府共通科目において、多分野の専門に触れることで学際的教養の育成を図る。

【研究指導体制】

複数指導教員体制をとり、学生へのきめこまやかな指導をめざしている。博士後期課程の学生については1名の主指導教員と2名の副指導教員で研究指導に当たる。この他、入学当初にはオリエンテーションを行い、コースワークや教員陣容について解説することで、学生の興味関心に応え得る研究・教育体制であることを示し、学生が自身の研究の推進において必要な情報にアクセスしやすい環境を整えている。

【学位論文審査体制】

【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

論文を提出された主指導教員は論文調査会(仮)を招集し、論文の実質的予備調査を行い、予備調査会の開催の可否について審議する。専攻の講師以上の教員で構成される予備調査会は、主指導教員から提出された博士論文の内容の説明を受け、当該論文が所定の水準にあるかどうかを審議する。その後、論文が提出された学府長は、学府教授会において論文の受理と論文調査会の設置について審議を行う。ここで、論文調査会は主査1人を含む3人以上の論文調査委員を持って構成する。このとき、主査及び1人以上の論文調査委員を学生の所属する専攻の教員のうちから選出し、他の論文調査委員のうち1人以上を他の専攻の指導教員または他の学府、他大学等の教員のうちから選定する。論文調査会は公平性と質の確保のため、学内外から博士論文の内容に造詣が深い方々を招いた一般公開の論文公聴会を開催し、論文提出者は、博士論文について発表し、出席者との質疑応答を行う。論文審査会は専攻の教授ならびに主査、副査で構成され、論文調査会から提出された調査報告書に基づいて合否を決定する。論文審査会がまとめた審査報告書を受けた学府長は、学府教授会において、論文審査会の審査報告書に基づいて学位授与の可否を審議し、決定する。

【継続的なカリキュラム見直しの仕組み（内部質保証）】

ディプロマ・ポリシーに掲げた学修目標の達成度は、以下の方針（アセスメント・プラン）に基づいて評価し、その評価結果に基づいて、比較的専門に近い教員によって構成される構造系教育会議等のコース毎の検討会議等において、授業科目内の教授方法や授業科目の配置等の改善の必要性を検討することで、教学マネジメントを推進する。

《アセスメント・プラン》

博士論文の内容、各授業の成績評価に基づいて、学修目標の達成度を総合的に評価する。

3. 新アドミッション・ポリシー

求める学生像	<p>(全学共通) 国立大学法人九州大学では、本学教育憲章の理念と目的を達成するために、高等学校等における基礎的教科・科目の普遍的履修を基盤とし、大学における総合的な教養教育や専門基礎教育を受け、自ら学ぶ姿勢を身に付け、さらに進んで自ら問いを立て、創造的・批判的に吟味・検討し、他者と協働し、多様で幅広い視野で問題解決にあたる力を持つアクティブ・ラーナーへと成長する学生を求めている。</p> <p>(部局固有) 空間システム専攻(博士プログラム)では、学士・修士課程で培った以下のような資質を備えた学生を求めている。ただし、全ての資質をバランス良く備えていることだけでなく、突出した資質</p>
--------	--

【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

	<p>や能力を評価することも重要だと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① ハードな工学技術からソフトな社会、文化、芸術に至る幅広い分野への関心と自らの専門分野に関わる専門知識や技能 ② 自ら課題を発見しようとする探究心とその課題の背景を深く洞察する能力 ③ 得られた知識を活かし、他者と協働して新しい提案を生み出す能力 ④ 自らの考えを分かりやすく伝え、他者の理解を得るための表現力と語学力 ⑤ 専門家を目指して常に努力する前向きな姿勢とそれを継続する意欲
<p>入学者選抜方法との関係</p>	<p>一般選抜および社会人特別選抜では、個別学力試験（外国語試験のみ）によって「求める学生像」の④の語学力、修士学位論文（写）と論文要旨、もしくは研究業績概要調書と研究計画書、さらに口述試験におけるこれまでの研究および今後の研究計画に関する発表・質疑応答によって①～⑤の資質について総合的に評価する。</p>